

H20 年度第 1 回事前調査検討専門部会 議事録（案）

日時：2008 年 7 月 15 日（火）14：00～17：00

場所：海洋研究開発機構 東京事務所 セミナー室

出席者（敬称略）

専門部会長：芦 寿一郎（東京大学）

専門部会委員：荒井晃作（産業技術総合研究所）岡野 正（海洋研究開発機構）

小平秀一（海洋研究開発機構）中西正男（千葉大学）* 日野亮太（東北大学）

* 三浦誠一（海洋研究開発機構）

* 兼 SSP 委員 IODP 部会執行部会担当

SSP 委員：朴 進午（東京大学海洋研究所）

事務局：加賀谷一茶 吉岡由紀

欠席者（敬称略）

専門部会委員：加藤幸弘（海上保安庁）辻 喜弘（石油天然ガス・金属鉱物資源機構）

矢口良一（三井石油開発株式会社）山本啓之（海洋研究開発機構）

議事次第

- 1．科学推進専門部会の再編と新部会設立について [事務局]
- 2．掘削研究専門部会との連携の模索 [芦部会長]
- 3．IFREE による IODP 構造探査協力の今後について [小平委員、芦部会長]
- 4．IODP 構造探査データに関する普及・広報について [芦部会長、事務局]
- 5．その他

配布資料

- | | |
|----------|--|
| 資料 1 | 前回議事録（案） |
| 資料 2 | 新専門部会起ち上げの経緯 |
| 資料 3 | 第 1 回掘削研究専門部会報告 |
| 資料 4 - 1 | J-DESC Website への IODP 事前調査支援情報の掲載について |
| 資料 4 - 2 | IFREE と J-DESC の連携による IODP 関連構造探査の進め方 |
| 資料 4 - 3 | 申請・問い合わせフォーム（案） |
| 資料 4 - 4 | 調査機器概要 |
| 資料 4 - 5 | 調査船設備一覧 |
| 資料 4 - 6 | IODP 構造探査データサイト（リンク集） |
| 参考資料 1 | 部会メンバーローテーション表 |
| 参考資料 2 | SSP メンバーローテーション表 |
| 参考資料 3 | J-DESC・IODP・ICDP 年間スケジュール表 |

議事録（案）

はじめに事務局より配布資料の確認が行われた。

0．朴氏より SSP の現状についての報告

- ・ 7月に釜山で行われる予定だったが、レビューすべきプロポーザルが少なく、キャンセルされた。メールベースでの議論が行われている（今回が初めて）。
- ・ 現在4プロポーザルに対してワッチドックが割り当てられ、レビューの最中
- ・ 次回1月もしくは2月の開催場所、次のチェアの交代などの議題も残っている。
- ・ 釜山でもう一度開催できるかどうかは未定だが、K-IODPは名乗りを上げている。
- ・ チェアについても今回がメールベースだったから延長されるかもしれない。委員の任期について、J-DESCは一度延長と考えているが、ここで決めていただくとありがたい（事務局）
- ・ 2009年10月時点で人数の削減が終わるように、任期も議論していただきたい
- ・ 後ほど朴さんを中心に議論をしていただく。

（事務局補足）チェアは今回の会議で退任となりました。よって次回から朴委員がチェアとなります。また、今回はメールベースの会議でしたが、チェアの退任やレビューが行われたこともあり、正式開催として委員任期の回数に含める事になりました。

1．科学推進専門部会の再編と新部会設立について

2．掘削研究専門部会との連携の模索

（議事1．2．については同時進行で進められた）

[資料2に沿って事務局より概略説明]

- ・ 科学推進専門部会の役割を分担するために、掘削研究専門部会と掘削航海専門部会の二つの部会へ分割
- ・ 掘削研究専門部会は、掘削科学の振興を目指す
- ・ 掘削航海専門部会は乗船研究者の推薦、情報収集をおこない、戦略的な日本の組織作りを目指す
- ・ 科学推進専門部会は国際パネルの統合に伴い統合されたが、今回は機能を見直し効率的に動けるように再組織した
- ・ 掘削航海専門部会の活動内容は、IODP航海への応募者が活発に集まらないという現状があるので、サイエンスをまとめられる人をはじめとして科学目的の達成のために最善のチームを組織する
- ・ 掘削研究専門部会は事前調査部会とも連携する
具体的事前調査の要望があがったとき、J-DESCでサポートするが、科学目的について掘削研究部会で検討し、Feasibilityは事前調査部会が吟味することになる

[資料3に沿って事務局より前回の掘削研究専門部会についての報告]

➤ プロポーザル作成スクールについての議論

- ・ コアスクールの枠組みを使って、学生に掘削提案を書いてもらうような機会をつくるといいかもしれないというアイデアが出た。SSEPなどの経験者からのアドバイスもできると良い。
- ・ 掘削提案作成に関するシンポジウムなどは現実的なアイデアとして考えている（海洋研シンポジウムなどの機会を利用）開催時期などにも注意が必要
- ・ 大学院生には厳しいかもしれないが、同世代の別の専門の院生との共同作業の思考実験ができるか

もしれない。最初の動機付けがあって安定してできるようになるまでにはまだ遠いだろうが、やる意義はある。

- ・ はじめはある程度絞ったテーマに関するものをするのとやりやすいかもしれない
 - ・ 山本氏は、医学系大学でのトレーニングの例を紹介されていた。小グループで試しに書かせてみると良い教育になるだろう
 - ・ ある程度の成果物を示して引っ張っていくと教育として意味があるだろう。異分野間の院生のつきあいが生まれるとなおよい
 - ・ かつて、淡青や白鳳で若い学生が他分野の研究者と一緒に航海となることが多かった。そのような異分野交流が少なくなりつつあるので、異分野の人にわかるように説明するという訓練は重要。
 - ・ “コアスクール”の枠組みだろうけれども “プロポーザル作成に関する～の学校”というイメージ
- 専門部会の再編・役割についての議論
- ・ 科学推進以外の部会に関しても組織変更などが発生しないとは言えないだろうし、本部会も国内での活動できる場が少ないことも事実
 - ・ 当初は国際パネルをミラーする形で国内部会は作られたが、実際航海が始まってみて、専門部会活動について必要がある・なしで構成を変えて行くべきかもしれない
 - ・ J-DESC/IFREE の連携による構造探査については、この部会で主に Feasibility や技術的アドバイスをを行い、掘削研究部会でサイエンスを評価してランキングし、支援するかどうかを決定する、という流れ
 - ・ 事前調査リクエストがくれば、自分のことのように親身になってアドバイスや支援を行う体制を覚悟する必要がある。実際には掘削航海がなかなか行われないので、要望がほとんど無い状態

3. IFREE による IODP 構造探査協力の今後について

小平委員によるプレゼンテーション

- ・ 掘削研究専門部会では事前調査部会から上がってくるアンケートに基づいて、J-DESC として側線提案型にこういったものを推薦するかということ議論していただくとともに、IFREE が次年度に実行する IODP に関わる調査について（掘削研究部会が）承認する機能を持っていただくということをお話した
- ・ IFREE では、油価の高騰により半分ほどの研究航海がキャンセルとなってしまった
- ・ 2009 年度は基本的に OJP, Mohole の基礎データ（ブチスポット研究にも資せる）、IBM, KAP, NanTroSEIZE について J-DESC と連携して調査計画を策定
- ・ 初年度は、シップタイムは削減されるものの北西太平洋で「かいいい」「かしよう」を用いた地震探査が承認されている

以下質疑

- 現時点では、すでに提出されたアンケートがすべてで他に問い合わせなどは全くない状況
- 事前調査部会ではアンケートなどをとりまとめ、コメントをつけて掘削研究部会へ送る。その段階で提案者とのやりとりが発生するであろう
- 掘削研究部会で複数の提案に対してのプライオリティを付けてもらう必要がある
- この部会で、JAMSTEC が一般に公開していない観測機器を使用すべき調査かどうかを

審議する必要があるだろう。アンケートだけだと、知らずに必要以上のスペックを要求する例も出かねない

- IFREE で現在公募中の測線提案型と、この J-DESC 連携の仕組みとのルートが二つある状態となっており、クリアではない
- こちらの仕組みを利用する研究者はまずアンケートを出していただければルートも定まってくるのではないかと

4. IODP 構造探査データに関する普及広報について

資料 4 - 3 について事務局より補足

- ・ 前回まではプロポーザル作成状況に応じて 3 つのフォームが存在していたが、IFREE との協力体制が整ったのでニーズの確認アンケートではなく、申請書兼問い合わせフォームという形
- ・ 守秘義務についての文言も最後に載せることが必要

資料 4 - 1 について事務局より説明

- ・ J-DESC ウェブサイトの科学支援の項目に「IODP 地下構造探査データ取得支援」という項目をもうけて、掲載する

以下質疑

- 各タイトル、文章に関して、「海洋研究開発機構の海洋調査船を使用した」という文言は誤解を招くおそれがあるので書かない方がよい部分がある
- 応募ルートをきちんと説明することも大切。ニーズの発掘と同時に、間口を広くすることも大切。知りたいことの段階に応じた窓口を設定する、もしくは標準的な、模式的例を示したような申請フローチャートがあると良いのでは
- まずは問い合わせをくれ、としたのは丁寧になりすぎると説明が膨大になり、余計わかりづらくなるおそれもあるので要注意、という理由から、同じ議論は執行部でもなされた
- IODP に関する事前調査はまずここにご一報ください、という窓口がいいのでは
- 資料 4-3 のフォームでどう誘導できるかも重要
- 資料 4-2 相当の情報をお知らせするところが必要、参考資料としてつける
- 議論を踏まえて改訂し、もう一度小平氏に確認を仰いだ後メールで議論をお願いする。
- マルチのデータが前提のようであるが、シングルで用が足りるものについての選別はどうするか？マルチが前提だと記入が煩雑なのではないか？
- IODP 地下構造探査とは、という入門者向けの説明ページをもうけることも考えられる。SSP でマトリックスを作成していたが、それがダウンロードできるので芦氏と朴氏で検討する。次回までにたたき台を用意

5. その他話題提供(各機関実施調査内容報告)

◆ JAMSTEC/CDEX 運用管理室岡野氏より、平成 20 年度調査計画および実績に関するプレゼンテーションが行われた

- ・ 房総半島沖および伊豆小笠原海域周辺で潮流調査も含めて実施予定であったが、燃料高騰により調査中止となった
- ・ 「かいいい」での調査を計画している IFREE に、SCS 調査等掘削安全のための事前調査の実施について打診をした。

- ・ 房総沖で測線提案型ということで「かいいい」の換装後の調査として、4/26-4/30 に約 350 k m のデータが取れた
 - ・ 新システムで取った測線は、分解能があがった。今後の精細な検討が期待される。
 - ・ 「ちきゅう」の現状と今後の予定、アジマススラスタ等の修復は 2009 年 1 月までに終了し 2009 年 3 月 6 月にかけて NT2-11 サイト（三次元調査の範囲の北東部分）でライザー掘削実施予定
 - ・ アジマススラスタについて
2008 年 2 月から実施した「ちきゅう」の中間検査工事および保守・点検・整備作業の結果、アジマススラスタ（船位保持のための 360° 回転可能な推進機）の 3 基のギアの歯車の歯の一部に破損および亀裂が見つかった。これは複数の要因により発生したと考えられており、ギア全て（6 基）を新たに製作するギアに交換する
- ◆ 三浦委員より SSBD サイトから必要な情報についての紹介後 JAMSTEC の構造探査システムについてのプレゼンテーションが行われた
 - ・ IODP への寄与を展望して MCS の高精度化
 - ・ 新システムではバブルのノイズが緩和された
 - ・ OBS データから後続波を確認しやすくなった
 - ◆ 日野委員より、房総の調査に関連して、地震研究所で行われる探査などについて口頭にて簡単に紹介があった。フィリピン海プレートが沈み込んでいるところでサンプリングを行う。一部は KAP にも貢献できる。
 - ◆ 芦部会長より、辻委員に代わり、三次元物理探査船「資源」による三陸沖北部海域および小笠原北部海域における海上物理探査データ取得について、簡単に紹介があった。
 - ◆ 芦部会長より矢口委員に代わり、国内民間企業による石油探鉱調査作業についての紹介
 - ◆ 芦部会長より白鳳丸・淡青丸の航海予定についての紹介
 - ◆ 荒井委員より、産総研の沖縄調査予定についての紹介
 - ・ 三年計画で沖縄の周りを調査
 - ・ 日韓で計画している沖縄トラフの研究にもデータを活用できるかもしれないが、珊瑚礁掘削への寄与の方が現実的かもしれない

最後に、

芦部会長より事前調査専門部会ウェブサイト原案にもとづいて事前調査検討専門部会の普及広報についての補足説明があった

- ・ 資料 4 - 5 に対する修正点や改良点などがあれば事務局へ連絡のこと
事務局にて訂正
- ・ 一連の修正を反映させて二週間ほど後に修正後のデータを回覧し、実際にアップロード
- ・ 締め切りについての言及も加えるべき
年内に設定するのが現実的
- ・ 年末の締め切り後、一月中に一度部会を開く
- ・ 正式提出の前に一度「出す気がある」ということを示してもらえるといいのではないかと
- ・ 12 月までに提出していただければ二年後実施を見込むことになる。その旨表示する

- ・ 翌々年度の実施となることを明記する

日野委員より、スクール開催時には簡単な解説などが事前部会から貢献できるのではないか。キャンペーンでやるよりも効果的ではないか。という意見が出された。

執行部にも上申

委員の任期について：

- ・ 三浦委員、矢口委員、小平委員は 2009 年度までの任期
- ・ 新委員の心当たりがあれば、ご紹介をお願いしたい